

## 平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立富屋小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

平成31年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 43 人

② 算数 43 人

#### 5 留意事項

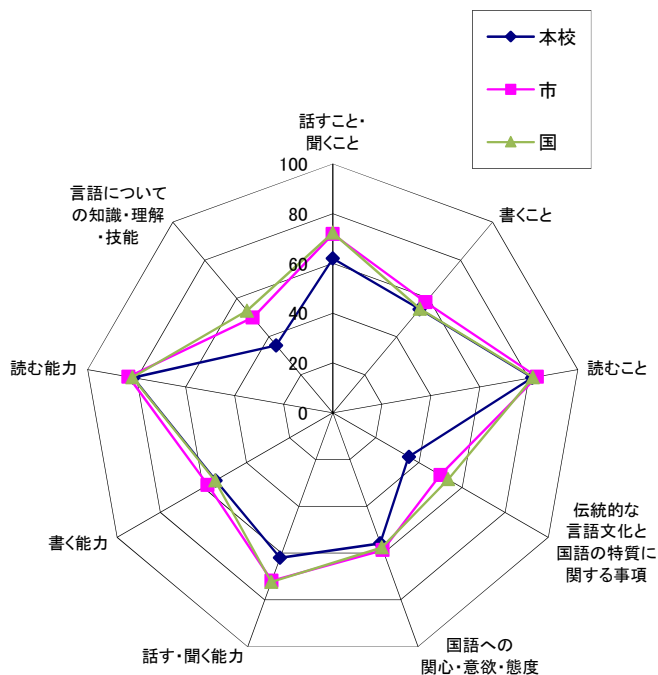
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立富屋小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	62.0	71.8	72.3
	書くこと	54.3	58.0	54.5
	読むこと	81.4	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	35.3	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	55.8	58.7	57.6
	話す・聞く能力	62.0	71.8	72.3
	書く能力	54.3	58.0	54.5
	読む能力	81.4	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	35.3	50.0	53.5



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

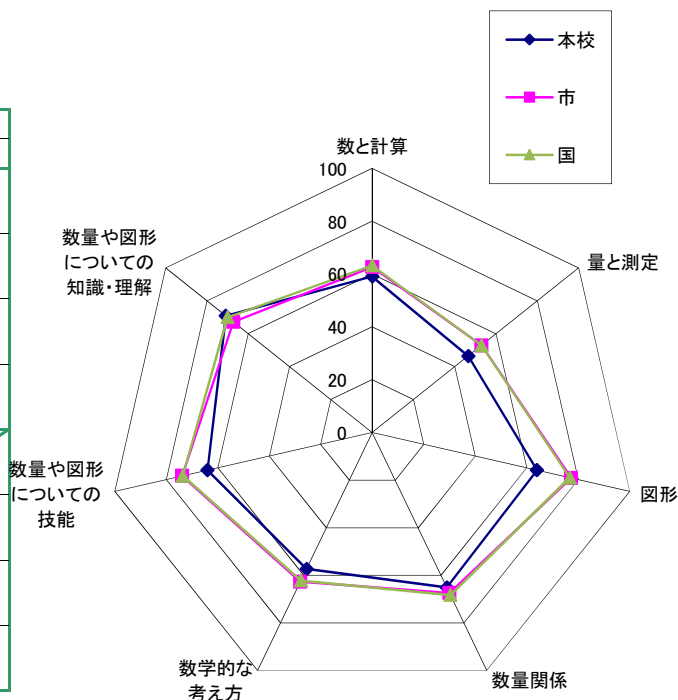
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○話し手の意図を捉えながら聞き、自分の理解を確認するための質問をすることの設問の正答率は、県や全国と同等だった。</p> <p>●目的に応じて質問を工夫することの設問の正答率は、県や全国を大きく下回った。</p> <p>●話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめ記述する設問の正答率は、県や全国をやや下回り、無回答率は大きく上回った。</p>	<p>・国語を中心に、各教科・領域において、友達の見解に対して賛成、反対、付け足し、質問などの意志を表明させたり、インタビューの機会を設けて話したり聞いたりする活動を取り入れたりするなどして、児童一人一人が主体的、能動的に聞き、自分なりの考えや意見がもてるようにする。</p>
書くこと	<p>○書くことの正答率は、どの設問においても県や全国と同等だった。</p> <p>○目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて記述して書くことの設問の正答率は、全国をわずかに上回った。</p>	<p>・今後も書く機会を多く設け、読んだ文章や聞いたことについて、メモ、要約、感想、意見、理由、根拠、構成、表現など目的や意図に応じて書けるよう支援する。</p>
読むこと	<p>○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく読むことの設問の正答率は、県や全国と同等だった。</p> <p>●目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むことの設問の正答率は、県や全国をやや下回った。</p>	<p>・読んだ文章について、大切なところを理解させるだけでなく、段落と段落のつながりや構成を捉えさせたり、図表の効果を考えさせたりするなどして、筆者の意図や文章全体の理解が深まるようにする。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる設問の正答率は、県や全国と同等だった。</p> <p>●漢字を文の中で正しく使うことの設問の正答率は、県や全国を大きく下回った。</p>	<p>・今後も漢字練習や復習テストなどを続けていく。その際に、熟語や同音異義語を調べたり、用例を考えて文章に用いたりさせるなど、漢字を正しく使えるよう学習方法を工夫する。</p>

# 宇都宮市立富屋小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

## 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	59.1	62.7	63.2
	量と測定	46.5	52.9	52.9
	図形	64.0	77.3	76.7
	数量関係	65.1	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	57.3	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	64.0	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	70.9	67.2	70.1



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○除法の式の意味の理解や加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする問題については、県や全国の平均を上回った。</p> <p>●示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式する問題については、県や全国の平均を大きく下回った。</p>	<p>・朝の学習の時間などを利用して、加法、減法、乗法、除法が混じった問題に取り組み、反復練習を多く取り入れて更なる定着を図る。</p> <p>・複数の情報から必要な情報を選択し、立式させたり、文章や図で記述して考えさせる機会を多く取り入れ、習熟を図る。</p>
量と測定	<p>○資料の特徴や傾向を用いて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述する問題については、県や全国の正答率とほぼ同じだった。</p> <p>●示された図形の面積の求め方の式を解釈し、その求め方の説明を記述することについては、県や全国の正答率を大きく下回った。</p>	<p>・資料から分かることを読み取らせたり、読み取ったことを文章で記述させる機会を設定し、更なる定着を図る。</p> <p>・式や図を見て、どのような考え方をしているのか読み取る機会を増やすために、友達の作った式がどのような意味をもっているか考えさせたり、友達の考え方や教科書に示された求め方を自分でも実際に解いてみる機会を設定したりして、習熟を図る。</p>
図形	<p>○長方形を直線で切ってきた図形の中から、台形を選ぶ問題については、県や全国の正答率とほぼ同じだった。</p> <p>●二つの合同な台形を、合わせて作ることができる形を選ぶ問題については、県や全国の正答率を大きく下回った。</p>	<p>・図形の名称などの理解はできている。基本的な図形の名称や面積の求め方を復習する機会を設定して、更なる定着を図る。</p> <p>・図形の性質や構成要素に着目し、空間の位置関係などについて、練習問題を解いたり、身の回りにある図形を意識して様々な見方をしたりする機会を設定して、習熟を図る。</p>
数量関係	<p>○棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取って選択肢を選ぶ問題については、県や全国の正答率とほぼ同じだった。</p> <p>●棒グラフの中の二つのデータに注目して、分かったことを記述する問題については、県や全国の正答率を大きく下回った。</p>	<p>・今後も算数だけでなく、各教科においても、様々なグラフの読み取りをさせ、グラフからどんな特徴や傾向が分かるかを文章で記述させる機会を設け、習熟を図る。</p>

## 宇都宮市立富屋小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか」「毎日、同じくらいの時刻に起きているか」との質問には、肯定的回答が90%程度あり、県や全国と同等かやや上回っている。また、この質問に対して「全くない」と答えた児童はおらず、6年生全員の睡眠の習慣が安定していることが分かる。引き続き、学級活動や保健体育などで睡眠の重要性を考えさせたり、早寝早起きを励行したりして、よい生活習慣を身に付けることにつなげていきたい。

○「先生はよいところを認めてくれるか」や「先生は理解していないところを分かるまで教えてくれる」、「国語の授業の内容はよく分かる」、「算数の授業の内容はよく分かる」の質問には、肯定的回答が90%以上あり、県・全国をやや上回っている。学校の授業について、今後も、児童の理解度を把握しながら、児童の実態に即した授業や効果的な指導法を実践していく。

○「学校のまきまりを守っているか」との質問には、100%の児童が肯定的に回答した。最上級生としての自覚と責任をもち、下級生の模範となるよう、今後も規律を守るだけでなく、率先垂範の心構えをもって実践するなど学校全体を盛り上げていけるよう支援したい。

○「国語の勉強は大切か」「算数の勉強は大切か」との質問には、100%の児童が肯定的に回答した。勉強は大切であるとの児童の思いを受け、どの授業においても児童の興味や関心を大切に、児童が主体的、協働的に学び、生きる力を育む場を実現していけるよう努力する。

●「自分にはよいところがあると思うか」「難しいことでも、失敗を恐れず挑戦しているか」との質問には、肯定的回答が県や全国を下回っている。小学校6年間のまとめとして、児童が互いに長所や日頃の善行を認めたり、これまでの経験を振り返って、挑戦し、成功してきたことを想起させたりして、自己有用感や他者理解を深めることで自信をもたせたい。

●「学校の授業以外で、普段、1日当たりどれくらいの時間勉強をしているか」との質問に、推奨されている1時間以上を達成している児童は半数であり、県・全国を大きく下回っている。家庭学習では、量・質とも改善を図るとともに、自主学習を励行し、家庭学習のよい取組を紹介するなどして学習習慣が身に付くよう支援していきたい。

●「学校の授業以外で、普段、1日当たりどれくらい読書をするか」との質問に、「全くしない」と回答した児童が県や全国を上回っている。また、「学校図書館や地域の図書館にどれくらい行くか」との質問には、「年数回」と「全く行かない」と回答した児童を合わせると、県や全国を上回っている。「新聞を読んでいるか」との質問にも、「全く読まない」と回答した児童も県や全国を大きく上回っている。「読書は好きか」との質問には、肯定的回答が県や全国と同等であるものの、読書量や読書の経験は少ないことが分かる。読書量の少なさは、今回の調査で「国語の解答時間は十分だったか」との質問に、十分でないか否定的に回答した児童が県や全国を大きく上回っており、読んだり、それを理解したりする速さにも影響があると想像される。図書室での児童の貸出冊数は、個人間で大きな開きがあり、読書経験の少ない児童に対して、本を定期的に借りるよう支援したい。また、児童が読む本の分類にも偏りが出ないよう、帯やポップの作成などで児童同士が本を紹介し合ったり、国語に限らず教科横断的に関連図書を司書に紹介してもらったりするなどの取組を実践し、児童の読書への意欲向上に努めたい。

## 宇都宮市立富屋小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

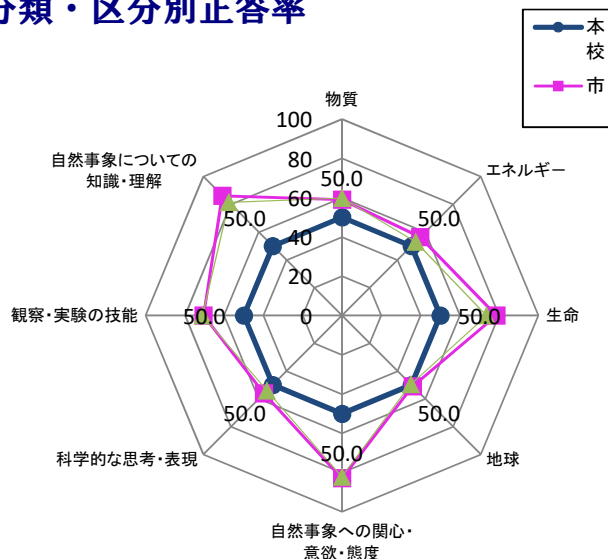
重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
めあての提示文・言葉の吟味と、授業におけるまとめ・振り返りの充実。	・めあてと学習問題は区別するために提示文の言葉を吟味して、焦点化された目当てを提示する。 ・授業の最後に、本時の課題に対するまとめを板書して全員で確認し、一人一人が分かったことなどを振り返る。	「国語の授業で自分の考えを書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組み立てを工夫していますか。」という問いに対して肯定的に回答した児童の割合が60%程度と県よりも低かった。
課題に対する考えの足跡が残るようなノート指導	・発達の段階に応じたノート指導を行い、各教科の授業の中で自分の考えを書く活動を意図的に取り入れている。	「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」という問いに肯定的に回答した児童の割合は県と同等だった。

# 宇都宮市立〇〇〇小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

## 【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	50.0	59.0	59.8
	エネルギー	50.0	56.4	53.1
	生命	50.0	78.6	73.6
	地球	50.0	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	50.0	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	50.0	56.1	54.1
	観察・実験の技能	50.0	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	50.0	86.2	81.5



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	○ ●	
エネルギー		
生命		
地球		